

専任教員教育研究業績

平成29年4月18日

氏名	ふりがな	所属学科	職 位	性別
上野 文枝	うえの ふみえ	保育学科	学科長 教授・准教授・講師・助教	男・女
担 当 科 目 名			学 内 委 員 会 等 (委 員 長)	
社会的養護・社会的養護内容・相談援助・保育実習指導Ⅰ・Ⅲ・保育実習Ⅰ（施設）・保育実習Ⅲ・生活実践Ⅰ（保育グッズ手作り講座）・生活実践Ⅱ（女性のライフデザイン）・ゼミナール・サービ斯拉ーニング			おだたん人間成長講座運営委員 「短大通信」編集委員	
学 歴				
和暦（西暦）年 月	事 項			学位
昭和53年4月	奈良女子大学家政部被服学科 入学			
昭和57年3月	奈良女子大学家政部被服学科 卒業			
昭和58年4月	奈良女子大学大学院家政学研究科（修士課程）被服学専攻入学			
昭和60年3月	奈良女子大学大学院家政学研究科（修士課程）被服学専攻修了			家政学修士
平成11年4月	東京福祉商経専門学校社会福祉士養成通信課程入学			
平成13年3月	東京福祉商経専門学校社会福祉士養成通信課程修了			
平成14年4月	大正大学大学院人間学研究科（博士前期課程）社会福祉学専攻入学			
平成17年3月	大正大学大学院人間学研究科（博士前期課程）社会福祉学専攻修了			社会福祉学修士
平成22年4月	奈良女子大学大学院人間文化研究科社会生活環境学講座（博士後期課程）入学			
教 育 歴 ・ 職 歴				
名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容		
社会福祉法人東京都福祉事業協会母子生活支援施設スタート方南	平成10年4月～平成17年2月	母子指導員		
学校法人小池学園東萌保育専門学校 専任講師	平成17年4月～平成19年3月	「児童福祉論」「保育実習指導」「障害児保育」「社会福祉」「養護内容」「養護原理」等担当		
皇學館大学社会福祉学部 助手	平成19年4月～平成20年9月	社会福祉士/保育士/介護福祉士/教育実習等の実習事務・相談・学生支援		
皇學館大学社会福祉学部 助教	平成20年10月～平成25年3月	社会福祉援助技術現場実習・実習指導 平成23年度より「現代と福祉」「児童・家庭福祉論」「公的扶助論」等担当		
皇學館大学現代日本社会学部 助教	平成25年4月～平成27年3月	担当科目：「現代と福祉」「児童・家庭福祉論」「公的扶助論」「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」「スクールソーシャルワーク論」「現代日本演習Ⅱ」「リーダーシップ・セミナー」「介護等体験」		
小田原短期大学保育学科 講師	平成27年4月～現在	担当科目：「社会的養護」「社会的養護内容」「相談援助」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ」		
所 属 学 会 等				
名 称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）		
日本社会福祉士会会員	平成13年5月～現在	会員		
日本社会福祉学会	平成19年7月～現在	会員		
日本学校ソーシャルワーク学会会員	平成20年4月～現在	会員		
日本子ども虐待防止学会	平成21年11月～現在	会員		

日本家政学会家族関係学部会会員	平成22年7月～現在	会員
日本ジェンダー学会会員 (～現在に至る)	平成22年12月～現在	会員
日本保育者養成教育学会 会員	平成29年2月～現在	会員
社会活動等		
名称	活動期間	活動内容
東京都社会福祉協議会 母子福祉部会調査研究 委員会委員	平成13年4月～平成 15年3月	2年毎に実施する東京都内の母子生活支援施設の調査研究 と報告書の作成
皇学館大学地域福祉文 化研究所「ちょっとちょ っと講義」	平成22年5月26日	研究所主催の地域住民向け講座において、「現代日本でご 飯を食べられない子どもたち—子どもの貧困と世代間連鎖 の問題を考える—」のテーマで講座を行なった。
皇学館大学社会福祉学部 月例文化講座	平成22年10月16日	「現代日本でご飯を食べられない子どもたち—子どもの貧 困と世代間連鎖の問題を考える—」のテーマで講座を行な った。
高大連携授業	平成22年11月16日	三重県立名張高校における高大連携授業にて、「母子及び 寡婦福祉法」1コマ(90分)を担当する。
社会福祉法人明照浄済 会理事	平成24年4月～現在	児童養護施設、母子生活支援施設、児童館、児童家庭支援 センター等を運営する社会福祉法人の理事
名張市要保護児童対策 及びDV対策地域協議会 代表者会議	平成24年5月～平成 27年3月	名張市の要対協において、大学を代表して出席
社会福祉法人青松園評 議員	平成25年5月～平成 27年4月	特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人の評議員
伊勢市男女共同参画事 業	平成26年11月14日	伊勢市人権施策推進協議会(事務局:伊勢市人権政策課) のセミナーにて講演を行った。テーマは「働く場における 女性の人権について」、対象は伊勢市内の関係官庁、市民 団体、学校関係、市職員、40名程度。
学校法人三幸学園 階 層別研修 STEP3 講師	平成28年9月28日	「子育て支援 ①虐待・気になる子への対応」のテーマに て、保育所の中堅保育士対象の研修を行った。
公益財団法人神奈川県 立私立幼稚園連合会 教員免許状更新講習 講師	平成27年10月25日	「子どもを取り巻く家庭環境と保育者の視点—児童虐待、 DV、貧困などへの理解と対応—」 講師として免許更新対象の幼稚園教諭等の講習を行った。
公益財団法人神奈川県 立私立幼稚園連合会 教員免許状更新講習 講師	平成28年10月30日	「子どもを巡る家庭の諸問題と相談援助」 講師として免許更新対象の幼稚園教諭等の講習を行った。
学校法人三幸学園名古 屋こども専門学校 保 育課教育課程編成委員 会委員	平成29年2月1日～平 成31年3月31日	名古屋こども専門学校における保育士養成課程教育に関す る助言等を行う委員会委員となる。
担当教科目に関する資格・免許等		
名称	取得年月	取得機関
中学校教諭一級普通免許家 庭 昭五五六高二普第一二 七八号	昭和57年 3月	奈良教育委員会

高等学校教諭二級普通免許 家庭 昭五六中一普第一 二二九号	昭和57年3 月	奈良教育委員会
高等学校教諭一級普通免許 家庭 昭五九高一普第九 八号	昭和60年3 月	奈良教育委員会 公益財団法人社会福祉振興・試験センター
社会福祉士（登録番号第 29098号）	平成13年5 月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター
訪問介護員養成研修2級課 程修了	平成17年3 月	ベネッセ

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 社会福祉施設の理解を深めるために—これからの実習教育のあり方—	共著	平成18年3月	樹村房	福祉関係の人材養成においては、施設実習のあり方が重要であると考え、養成機関・受け入れ施設双方の視点を踏まえて論述されている。また、一般の地域住民とのかかわりについても視野に入れて、広く人材養成を目指す視点を盛り込んでいる。特に、具体的な事例を交えている点で、学生や一般住民にもわかりやすく、実習の果たすべき役割を明確にしている。
2. 平成22年度社会福祉学部月例文化講座13「開かれた時代の開かれた福祉」 スクールソーシャルワークの可能性—福祉と教育の協働—	共著	平成23年4月	皇學館大学出版部	平成22年度社会福祉学部月例文化講座13「開かれた時代の開かれた福祉」において、講演を担当し、その後、同名の書籍として出版した。最近クローズアップされてきているスクールソーシャルワークについて一般市民にわかりやすく紹介した。スクールソーシャルワーカー活用事業の経緯と国内外の取り組み、今後の課題と可能性について示した。
3. 現場のエピソードに学ぶ保育士受験対策講座 社会的養護	単著	平成28年10月	株式会社クリエイト	保育士試験の対策講座として、社会的養護の過去問を踏まえ、読みやすくわかりやすいテキストである。特に、事例を多く挿入し、社会的養護の現場に即した理解しやすいものとなっている。 吉田眞理監修
(学術論文) 1. DV・PTSD・虐待など精神的ケアを必要とする母親に対するケースワークを考える—母子生活支援施設における日常生活支援を通して—	単著	平成20年2月	皇學館大学社会福祉論集 第10号 (皇學館大学社会福祉学会)	母子生活支援施設に入所した精神的課題を抱えた母子のケースに対する援助のあり方をケースワークの原則に沿って分析・考察した。さらに、日常生活場面を通して、如何に効果的な支援を行うか、それによりクライアントのエンパワメント促し、問題解決に向かう課程を分析・考察した。
2. 子どもの健やかな成長を保障する社会の実現に向けて—母子生活支援施設におけるマルトリートメントからの考察—	単著	平成20年3月	皇學館大学社会福祉学部 紀要 No.10 (皇學館大学社会福祉学部)	母子生活支援施設に入所する母子について、家庭崩壊の要因をまとめるとともに、それらによって子どもの養育環境にも大きな影響を及ぼしていることを事例を元に考察した。児童虐待として見える以前の問題をマルトリートメントの観点で述べ、予防対策の必要性を示した。

3. 母子家庭の自立支援の現状と課題—一元母子生活支援施設利用者へのインタビュー調査から—	単著	平成21年3月	皇學館大学社会福祉論集 第11号(皇學館大学社会福祉学会)	母子生活支援施設を利用したことがある母子世帯の母親にインタビュー調査を行い、利用者としての視点から、施設を利用したことをどのように捉えているか、また、退所後の施設との関係や現在の生活について、子育てや自立の問題を中心に聞き取りを行い、そこからアフターケアのあり方や地域資源の活用や連携について考察した。
4. 母子家庭の就労支援について—母子生活支援施設における就労支援からの考察—	単著	平成21年3月	皇學館大学社会福祉学部紀要 No.11(皇學館大学社会福祉学部)	母子家庭の置かれている現状と施策について、ある母子生活支援施設における就労支援と経済的自立の状況を80例から分析した。学歴、就労支援の効果、DV等の影響、職業訓練の効果の有無との関係を検証し、自立支援のあり方について考察した。さらに、効果的な就労支援のためには生活全体の総合的支援が必要であることを示した。
5. 生育上の家族関係と生活困難の世代間連鎖について—A 母子生活支援施設における事例からの考察—	単著	平成22年3月	皇學館大学社会福祉学部紀要 No.12(皇學館大学社会福祉学部)	母子生活支援施設では、様々な生活困難を抱えた母子の支援を行っているが、困難を抱える要因として母親の成育歴や家族関係が影響している点に焦点を当て、A 母子生活支援施設の事例を分析し、現状を示した。また、その結果と平成21年に実施された(財)こども未来財団による全国調査の結果を比較検討することで、母子生活支援施設入所者に対する支援のあり方を考察した。さらに、生活困難を抱えたひとり親家庭において、世代間で問題が引き継がれていく可能性について論じた。
6. 現代日本における教育と福祉の協働—スクールソーシャルワーカー活用事業の経緯と今後の展望—	単著	平成23年3月	皇學館大学社会福祉学部紀要 No.13(皇學館大学社会福祉学部)	スクールソーシャルワーカー活用事業の導入の経緯と導入後の各自治体の取り組みについて、文献、調査研究結果を元にまとめた。学校における福祉的な支援の必要性が高まる今日、教育と福祉の協働を如何に進めていくか、課題は多い。2008年度の活用事業の創設までの経緯と、その後の運営の状況、政策や制度の経緯を踏まえた上で、現在の問題点を明らかにし、今後に向けての課題について論じた。
7. 母子生活支援施設利用者の家族関係と社会資源の活用に関する事例研究—一元利用者に対する聞き取り調査から—	単著	平成24年3月	皇學館大学紀要 第五十輯(皇學館大学)	母子生活支援施設を退所した母子家庭の母親に対し、施設利用前、利用中、退所後の生活と人間関係について聞き取り調査を行い、語られた内容からそれぞれの時期における人間関係や社会資源の活用について抽出し、分析したものである。
8. 日本の母子家庭に対する福祉政策の現状と課題	単著	平成25年3月	皇學館大学紀要 第五十一輯(皇學館大学) 107頁~129頁	"日本の母子家庭の8割以上の母親は働いているにも関わらず、貧困状態にある。この現状について、日本政府がどのような取り組みを行ってきたか、特に平成14年度以降の政策を中心に考察を行った。児童扶養手当支給額を抑える一方で、就労支援に力を入れるとされた政策は母子家庭全体の所得を底上げするだけの効果は見られていない。女性の就労全体を視野に入れて対策を立てる必要があると考えられる。
9. 高等学校における教科「福祉」のあり方について—福祉科の動向と課題	単著	平成26年3月	皇學館大学紀要第五十二輯(皇學館大学)	高等学校において、1999年告示の学習指導要領に教科「福祉」が新設され、2009年に改定が実施されたが、これにより体制を整えるために苦慮している状況が見られる。本研究では、これまでの高等学校における教科「福祉」の導入と改訂の経緯をたどりながら、高等学校における福祉教育と人材養成についての現状と課題について考察した。

10. 母子生活支援施設の歴史と DV 被害母子への支援～明治から現代のニーズの変遷を踏まえて～	単著	平成 26 年 3 月	現代日本論叢第 4 号 (皇學館大学現代日本社会学部)	母子生活支援施設は、明治期から今日まで母子家庭のおかれている時代的背景に左右されながら変遷してきた。そして、高度経済成長期からその数は減少の一途を辿っている。本稿では、その背景に母子生活支援施設が「かけこみ寺」と称される緊急保護を要する母子への対応を担ってきたことに注目し、現代の日本社会における存在意義を論じた。今後も DV 対応や生活困難母子に関してニーズが見込まれるが、地域的偏在や運営上の課題がある。
11. 母子寮及び父子寮に関する研究—ひとり親家庭に対する施策の変遷について—	単著	平成 26 年 8 月	日本ジェンダー研究 (日本ジェンダー学) 第 17 号	母子寮と父子寮の変遷と存在意義を比較しながら、時代背景との関係も含めて考察した。ジェンダーの視点から、母子家庭には法制化された支援が充実してきた一方で、父子に対する福祉的支援は必要とされながらも最近まで置き去りにされてきた状況を明らかにした。
12. イギリスの NHS におけるバースセンターの役割—出産と子育ての連続性の視点から—	単著	平成 27 年 3 月	皇學館大学紀要第 53 輯	2014 年 3 月 22 日～25 日、ロンドン市を中心に 5 箇所のバースセンターを訪問し、助産師から設立の経緯や病院とセンターの関係、出産と子育てと助産師の役割等について聞き取り調査を行った。イギリスのマタニティ政策の中で、出産がどのように扱われ、助産師の役割と意識を明らかにした。出産の脱医療化、NHS 制度によるすべての国民に平等な出産の場の提供、女性が主体的に出産の場を選ぶことと産後ケアと子育てとの連続性など、現地で直接調査し、施設設備を見学することで、イギリスの出産と子育てについての実情把握を行い、日本の現状との比較検討を行った。
13. 英国の NHS 管轄のマタニティケア・システムとバースセンターの実態	共著	平成 27 年 3 月	愛知県立大学看護学部 紀要 Vol. 21	英国 NHS 管轄のマタニティケア・システムとバースセンターの実態把握のためにロンドン市内と周辺の 6 か所のセンターにて、助産師へのインタビュー調査を行った。助産師がどのように妊産婦のケアを行っているかを調べ、日本の助産師の意識との違いを明らかにした。
(その他) (学会発表) 1. 新カリキュラムにむけた社会福祉援助技術現場実習の現状と課題—近畿・東海地域アンケート調査の結果を参考にして—	共同	平成 20 年 10 月	日本社会福祉学会 (大会名: 日本社会福祉学会全国大会 開催場所: 岡山県立大学)	社会福祉士養成が新カリキュラムに対応するにあたり、実習施設・機関に対するアンケート調査を実施、その内容を報告するとともに、問題点が明らかになった。新しい体制を求められる実習受け入れ側の混乱と情報不足、今後の課題について報告を行った。
2. 母子生活支援施設入所者の家族関係について—入所前から退所後の変化に関する考察—	単独	平成 22 年 10 月	(社)日本家政学会家族関係学部 (大会名: 第 30 回家族関係学セミナー 開催場所: ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター)	母子生活支援施設の元利用者に対する聞き取り調査によって得られたデータから、家族関係を中心にまとめ、入所直前と退所後の変化について考察した。また、インフォーマルな社会資源とフォーマルな社会資源についても、家族の変化とどのような関係があるか、考察した内容を発表した。
3. 母子寮および父子寮に関する研究—ひとり親家庭に対する施策の変遷について—	単独	平成 26 年 11 月 30 日 平成 14 年 5 月	日本社会福祉学会 (大会名: 日本社会福祉学会第 62 回秋季大会 開催場所: 早稲田大学)	明治以降に設立された母子寮は法的に規定されながら変遷し今日に至っているが、父子家庭のための施設はない。日本においてひとり親を対象とする法律は、1937 年に制定された母子保護法が最初だが、父子福祉については、法律の外にあったと言える。本研究では、母子寮と父子寮の存在意義と施策が時代背景の中でどのように変遷してきたのか、特に父子寮の存在に注目しながら、今日のひとり親家庭支援につながる点を中心に調査研究した結果を発表した。
4. イギリスの助産師を通してみる出産と子育ての連続性—バースセンターの助産師への聞き取り調査から—	単独	平成 27 年 9 月 20 日	日本社会福祉学会 (大会名: 日本社会福祉学会第 63 回秋季大会 開催場所: 久留米大学)	英国ロンドンにある NHS が運営するバースセンターで働く助産師に対し、出産と医療の関係、妊娠期から産後の子育て支援の現状について聞き取り調査を行った。ハイリスク出産や産後の子育て支援への引き継ぎの状況について、ポスターによる発表を行った。

(報告書) 1. 平成 14 年度 東京の母子生活支 援施設実態調査	共著	平成 15 年 3 月	社会福祉法人東京都社 会福祉協議会母子福祉 部会	東京都内 37 か所の母子生活支援施設とその利用者を対象と して質問紙による調査を行い、利用者サービス、施設機能の 向上に寄与すべく報告書として出版した。植山つる児童福祉 研究奨励基金対象研究。
2. 板橋区の子育 て支援サービスに 対する利用者側か らの評価～板橋区 との共同調査を通 じて～	共著	平成 16 年 3 月	大正大学大学院人間科 学研究科	大正大学大学院児童家庭福祉研究班において、板橋区と共同 調査を実施、区内の子育て世帯 1001 通の調査票より、地方 自治体の子育て支援システムのあり方を考察した。
3. 板橋区における 子育て支援事業の あり方に関する研 究～板橋区との共 同調査を通じて～	共著	平成 17 年 3 月	大正大学大学院人間科 学研究科	前年度に実施した板橋区における子育て世帯に対する調査に おいて、クロス集計と自由記述の分析を実施し、質的分析に ついてまとめた。
4. 児童家庭福祉に おける母子生活支 援施設の役割と今 後の展望—事例研 究からのアプロー チ—	共著	平成 17 年 3 月	大正大学社会福祉学会 鴨台社会福祉学論集第 14 号	母子生活支援施設における 72 の事例について、入所前・入所 中・退所時・退所後の時系列で支援内容、その時の状況を分 析した。修士論文の要旨として掲載。
5. 世界のお産紀行 英国バースセンタ ー訪問記	共著	平成 26 年 12 月 26 日	助産雑誌第 68 巻第 12 号	平成 26 年 3 月にロンドン市を中心に NHS が運営するバース センター6 箇所を訪問、助産師への聞き取り調査と参与観 察を行った。他国のお産事情を紹介する内容として助産雑誌 に寄稿し、施設紹介として掲載された。調査研究はユニバー ル財団による助成金により実施された。 【共著】 編者名及び共著者名：山名香奈美・神谷摂子・上野 文枝・松岡悦子 掲載頁：1094 頁～1098 頁
6. 女性の生き方と 妊娠・出産・子育 て—イギリスのバ ースセンターを調 査して	共著	平成 27 年 3 月	ユニバール財団助成事 業	2014 年 3 月に実施したイギリスのロンドン市を中心としたバ ースセンターの助産師への聞き取り調査の報告書。NHS 制度 における脱医療化の出産の現状について助産師の語りを通し て調査、そこから女性の働き方や生き方を探り、日本社会と の比較を試みた。ユニバール財団の助成金を活用した共同 研究であり、報告分担の中で、本件を取り扱った。 編者名及び共著者名：松岡悦子、山名香奈美、神谷摂子、上 野文枝
(教材) 1. 福祉のたね	共著	平成 21 年 2 月	皇學館大学出版部	皇學館大学社会福祉学部 10 周年の記念出版として、高校生に 配布する冊子を作成。「スクールソーシャルワーク」「福祉社 会」の項目を執筆した。
2. 実習の手引き	共著	平成 22 年 3 月	皇學館大学社会福祉学 部実習支援室	社会福祉士及び介護福祉士法の改定により、実習が新カリキ ュラムとなった。これに伴い、実習指導で使用する実習の手 引と日誌を作成した。
3. 免許状更新講習 テキスト	単著	平成 27 年 10 月 25 日	公益社団法人神奈川県 私立幼稚園連合会	「児童家庭福祉の視点から見た子どもの今日」 児童虐待、DV、子どもの貧困、ひとり親家庭など、子どもを 取り巻く家庭環境から来る様々な福祉課題を紹介し、児童家 庭福祉の視点から幼児教育・保育の場面でどのような対応が 必要かを考える。
4. 免許状更新講習 テキスト	単著	平成 28 年 10 月 30 日	公益社団法人神奈川県 私立幼稚園連合会	「子どもを巡る家庭の諸問題と相談援助」 児童虐待、DV、子どもの貧困、子どもを巡る家庭の問題を取り 上げ、社会的視点で現状を捉えるとともに幼稚園での保護者 対応に必要な相談援助の方法を考える。
その他 (表彰等) 奨励賞		平成 17 年 3 月	大正大学社会福祉学会より修士論文に対する奨励賞	